



の歴史についてお話を伺いました。 曲は『思い出の渚』、『この広い野原いっぱい』、『いつでも夢を (1962)』、『上を向いて歩こう』と続き、曲の合間にそれぞれの歌の時代背景などの説明も。

『いつでも夢を (1962)』では、参加女性の一人が吉永小百合さん役で歌われました。



途中休憩を挟んで、後半です。

磯部さんから『ハンマーダルシマーは「ピアノの祖先」と称され、台形の木の箱に鉄の弦が張っており、ハンマーと呼ばれる木のバチで弦を叩いて音を出す楽器で、ピアノと同じ打弦楽器に分類される等の話を交え、童謡からアメリカやアイルランド民謡、そして谷村新司



さんの『昴』まで、癒しの音色で演奏していただきました。

『かあさんの歌 (1956)』でみんなの歌を再開し、『なごり雪』、『戦争を知らない子供たち』、『今日までそして明日から』、『翼をください』と続き、コンサートは定刻に終了しました。



来年も企画しますのでご期待ください。 スタッフ一同

T. O 記

けれどそれにしたって
どこでどう変わってしまうか
そですわらないまま生きてゆく
明日からのそんな私です

私は今日まで生きてきました
私は今日まで生きてきました
私は今日まで生きてきました
私は今日まで生きてきました
そして今私は思っています
明日からもこうして
生きて行くだろうと

6. この広い野原いっぱい (1967)
詞:小園江子子 曲:森山良子

この広い野原いっぱい 咲く花を
ひとつ採らず あなたにあげる
赤いポンの 花束にして

この広い夜空いっぱい 咲く星を
ひとつ採らず あなたにあげる
虹にかがやく ガラスにつめて

この広い海いっぱい 咲く船を
ひとつ採らず あなたにあげる
青い帆に インシヤルつけて

この広い世界中の なにもかも
ひとつ採らず あなたにあげる
だからわたしに 手紙を書いて
手紙を書いて



7. 戦争を知らない子供 (1970)
詞:北山 華 曲:杉田二郎

戦争が終わって 傷等は空けた
戦争を知らずに 傷等は買った
おとなになって 歩き始め
平和の歌を くらすみながら
傷等の名前を 覚えてほしい
戦争を知らない 子供たちさ

雨さがるからと 許されないなら
髪の色が黒いと 許されないなら
今の私に 残っているのは
涙をこらえて 歌うことだけさ
傷等の名前を 覚えてほしい
戦争を知らない 子供たちさ

青空が好きで 花びらが好きで
いつでも笑顔の すてきな人なら
誰でも一緒に 歩いてゆこうよ
きれいな夕日が 輝く小道を
傷等の名前を 覚えてほしい
戦争を知らない 子供たちさ

なごり雪も 降る時を知り
ふざけずさ 季節のあとで
今春が来て 君はきれいになった
去年よりずっと きれいになった

8. 翼をください (1971)
詞:山上麗夫 曲:井井邦彦

いま私の願いが
叶うならば 翼がほしい
この宙中に 鳥のように
白い翼 つけてください

この大空に 翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない 自由な空へ
翼はためかせ 行きたい

いま富とか名譽ならば
いらなけれど 翼がほしい
子供のとき 夢見たこと
今も同じ夢に 見ている
この大空に 翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない 自由な空へ
翼はためかせ 行きたい

この大空に 翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない 自由な空へ
翼はためかせ 行きたい

9. なごり雪 (1971)
詞:伊勢三

汽車を待つ君の横で僕は
願をつけて 君は帰る
季節はずれの雲が降って
「東京で見る雲はこれが最後ね」と
さみしそうに 君がつぶやく

なごり雪も 降る時を知り
ふざけずさ 季節のあとで
今春が来て 君はきれいになった
去年よりずっと きれいになった

動き始めた汽車の窓に
願をつけて 君は帰る
季節はずれの雲が降って
君の口は「さようなら」と
言わなくて 下をむいてた
時が行けば 幼い君も
大人になると 気づかないまま

今 春が来て 君はきれいになった
去年よりずっと きれいになった
～開演～
君が去った ホームにのこり
雪をはとける 雲を見ていた
今 春が来て 君はきれいになった

去年よりずっと きれいになった
去年よりずっと きれいになった

10. 締めぐり (1974)
詞:山上麗夫 曲:山本輝太郎

あなたがいつか 睡してくれた
時を僕は たずねて来た
二人で行くと約束したが
今ではそれも かなわないこと

締めぐりの バスは走る
窓にひろがる 青い海よ
悲しみ深く胸に沈めたら
この旅終えて 街に帰ろう
～開演～

締めぐりの バスは走る
窓にひろがる 青い海よ
悲しみ深く胸に沈めたら
この旅終えて 街に 帰ろう
50 音韻